

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

[事業所概要(事業所記入)]

事業所番号	4071200549		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス (別館)		
所在地	福岡市西区千里字中原49-1		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果確定日	平成22年7月29日

[事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)]

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do>

[外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)]

[評価機関概要(評価機関記入)]

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ
訪問調査日	平成22年7月2日

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: 別館

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームとしての理念を作成しており、毎月行われている全職員参加のミーティング時に理念を唱和し、理念に沿ったケア及び地域交流が図れているかを確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議や夏祭り、節句祭りなどに地域の方をお招きし入居者・ご家族・職員との間で交流を図っている。また近隣の高校からは年に数回定期演奏会等で行き来する関係である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、医療や介護の情報を発信したり、老人会からの要望があるため勉強会を開催したりしている。また地域貢献の一環として、バスハイクの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2ヶ月に1回の頻度で会議を開催している。議題として現状報告や行事日程、ケアの実践などの報告を行っている。会議での意見や提案に関しては、議事録を作成後全職員に回覧を行うと共に、ミーティング時などにも内容に触れサービスの向上のために実		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険証の更新申請や介護報酬の請求に関してなど理解し得ない事柄があった場合、電話やFAXだけでなく、役所に出向いて相談するようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行っている。その中で「身体拘束をしないことの意義」について周知徹底を図っている。具体的には、ほんわかハウスの定める「身体拘束廃止委員会」にて毎月話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を開催している。法律の中身だけでなく、日々のケアの中でこういった事が虐待につながりまた虐待になるのかを学んでいる。また入浴や更衣時には全身の様子をしっかりと確認するように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を開催したり、外部研修に参加している。昨年は、地域包括支援センターとの協働で、地域住民、ご家族、職員を対象に権利擁護研修を開催した。また制度の利用が必要な方や情報を知りたい方へはその都度支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり、利用者、ご家族の不安が無くなるまでお話を伺った後に、契約についての説明を行い理解を頂いている。事前に想定されることや、ハウスでの生活の様子など事例を交えてお話をさせて頂くことで安心感を得て頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、不満や意見また要望などを伺える機会を設けている。また日常の来訪時にも職員から一声かける配慮を行っている。法人内には苦情相談窓口を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全員参加のミーティング時や、個別に時間を設けられる機会に現場職員の意見を聞き、運営に反映させることが出来るよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、昇給も含め定期的に見直しを行う機会を設けている。勤務時間や勤務形態に関して現場からの意見があった場合には、現場の状況に応じて環境整備を行っている。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用において性別、年齢、経験等での選別は行っていない。配属に関しては、本人の個性や配属先の状況に応じて行っている。また現職の職員に関しても、一人一人の個性や能力に応じた役割を提供し、仕事にやりがいや達成感を感じることが出来る職場環境作りに努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発週間に合わせて講演会や研修に参加している。また人権啓発に関する資料や、人尊協たよりなどの広報誌など内容に応じて回覧している。研修に参加した職員へは、報告発表の機会を設けている。		
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に関しては、現状に即した形で年間計画を立て、職員一人一人にあった研修を実施している。また認知症実践者研修やリーダー研修、その他GH協議会の研修などにも経験や能力に応じた形で研修参加が出来るよう支援している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福岡県高齢者GH協議会の活動を通じ、近隣の同業者と持ち回りで勉強会を開催したり、情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前、入居前に面談を行いご本人の話に耳を傾け確認を行っている。また、話しやすい環境づくりに努め、信頼関係を築きながらご本人の言葉以外の気持ちなどにも気を配るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の声を傾聴し、安心して利用 頂けるまでお話をさせて頂いている。来訪時だけでなく、電話や、手紙でのやり取りを通じて小さな心配事にも耳を傾けて対応させていただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほんわかハウスの利用だけでなく、ご本人のニーズを把握した上でご本人にあったサービスの紹介もさせて頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の買出しや、食事作り、夕食の献立表作りや、雑巾縫い、居室掃除、シーツ交換など出来る力に働きかけ、出来る限り協働作業が行えるよう心掛けている。また日々の暮らしの中で役割を持って頂けるような支援をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時にハウスでの生活の様子を伝え、ご家族からも心配事があれば些細なことでも何でもお話を伺うようにしている。また、電話や手紙なども利用しながら共に支え合う関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内には、馴染みの家具や道具を持ってきて頂いている。また、電話や手紙なども利用しながら、ご友人の方との関係を継続して頂けるよう支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がより良い信頼関係を作れるよう、共同作業時、買物や、ドライブのときなどにはスタッフが間に入り会話がスムーズに流れるよう心掛けている。うまくいかないときには、場面を変えるなどしながら良い関係が作れるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用 (契約) が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族より電話や手紙を頂くことがあるが、こちらから積極的に連絡をとったりは出来ない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や接する中で、どのような事を望まれているのか、また会話以外でも仕草や態度などから気持ちを把握できるよう心掛けています。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から直接話を伺ったことは記録に残し、職員全体で情報を共有するようにしている。また、ご家族や知人の方からも話を伺うようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりがご本人とのその日の出来事を生活記録になるべく細かく残し職員間で情報を共有している。それらの記録をもとに、ミーティング時に考察を行うことで総合的な把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者は、日頃から様々な職員から意見を聞いたり、ご本人やご家族のご希望を伺い、また、主治医の意見を取り入れながら、それぞれの意見を反映した介護計画作りに努めている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプランチェックシートに毎日記入をしている。生活記録には朝・昼・夜間の様子や体調などを細かく記録し、気になる点などがあればミーティングなどで話し合い次回のプラン作成に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合いの場を設け、一人ひとりにあった対応策を協議し、関係各所と連携しながら柔軟な支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校の体育祭や学園祭を見学に行ったり、近隣保育園との交流を図っている。またボランティアの受入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、極力要望に添える形をとり、医療機関と連携を図りながら支援している。また、医療連携日誌を活用している。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	インスリン注射を受けられている方がいらっしゃる受診日以外にも、毎日看護職員とは顔を合わせるため些細なことでも何かあれば報告、相談を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より担当医、看護師等と連絡を取り早期退院できるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族からの意向を伺い文章化している。また状態変化に応じ、今後予測されることを含めて協議し。その都度意向を確認している。またターミナルケアについての勉強会や話し合いを行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先や対処方法など、マニュアルを作成している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消火・避難訓練を行っている。併設施設との協力体制は出来ており、地域運営推進会議においても、いざというときをお願いをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録類は専用の棚で管理している。また、個々の生活歴や性格に応じた声掛けや対応を行っている。入浴は各個人で入って頂いて、見守りの際にも気を配っている。トイレの際は、扉の閉め忘れのないよう気をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行うときには必ずご本人の意見や要望を聞くようにしている。質問形式で聞いたり、提案の形をとったりとご本人が希望を気兼ねなく表出できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の希望、ペース、一日の流れやを把握し支援している。天候に関係なく外出することもある。行きつけていたスーパーや菓子店等へ出掛けたりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際には化粧やご本人の好きな服を選んでいただく等おしゃれをして出掛ける。散髪も、ご本人の体調がよければなるべく外の床屋に出掛けるようお誘いしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りやつぎ分けなど、利用者の方々と一緒に作ることを心掛けて、個々のできる力を最大限生かしながら支援している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を各個人の専用のファイルに記入をしている。また、栄養バランスも考えながらご本人の嗜好を取り入れるよう努力している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には歯磨きの声掛けを行い、難しい方にはスタッフが手伝いながら、毎食後に歯磨きを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれの方々に合わせたトイレの声掛け、誘導などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立表を作成する際、便秘の予防につながる作用のある食材の導入を行っている。水分摂取や適度な運動をして頂いている。その他腹部マッサージの実施。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々のご希望にあわせて時間やタイミングを図りお誘いし入浴して頂いている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムに合わせた就寝・起床時間で支援を行っている。疲れが見られたら昼寝を促したりしている。また、和室に休憩用のソファを置いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は各個人のファイルに納めてあり、誰でもすぐに目が通せるようにしてある。また変更時は記録に残し、皆で確認をしている。処方されている薬を一覧表にまとめ、処方目的、用法、用量、副作用を明記している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とする事、好んで取り組まれることを、その方の役割ごととして楽しんでもらうよう支援している。季節を感じながらリフレッシュしていただけるようにドライブや買物、散歩へお誘いしたりして外へ行く機会を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大半の時間をホームの中で過ごされることが多いが散歩や畑仕事、買物などに少しでも多く出掛けよう心掛けています。ご本人より外出の希望があれば、出来るだけその時に、希望に添えるよう努めている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いができる方にはご家族に説明して、ご自分でお金の管理もして頂き、支払いの際には、ご自分で支払いをして頂いている。難しい方には、ホームで立替えさせて頂き利用して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にご使用していただけるようにしている。手紙は、ご家族に対して貼り絵のはがきをだされたり、ご友人に習字の添削の手紙を出されている方もいる。手紙の内容や誤字がないかなどの確認や投函などの手伝いを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、リビング、和室などに季節の花を飾っている。カーテン、障子、すだれで光の調整をしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを置き入居者同士でお話をする事が出来る空間を設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が使用していた家具や物品を持って来て使っていただいている。バックグラウンドアセスメントを基に家具や物品を活用し、その方が安心して生活することが出来るよう支援している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を設置したり、家具の配置、ベッドの高さ調節を行いご本人が活動しやすい空間作りにつとめている。		